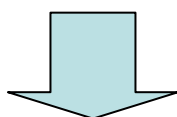


今後推進すべき教育者・研究者の養成方策について

【現状の主な課題】

- ・医療の高度化、疾病構造の変化、研究の学際化等により、先端・臨床研究の重要性増大
→ 研究能力を備えた臨床医が必要
- ・新医師臨床研修制度の影響等による、研究開始の遅れ、指導者層の負担増
- ・博士号取得のメリットが不明確
- ・医療水準向上のため、勤務医等の志望者も、研究活動により、科学的・論理的思考力を身につけることが必要



1 学部教育の改善について

- ・コア・カリキュラム改訂（「医師として求められる基本的な資質」、「学部教育における研究の視点」の記載の充実など）
- ・早期からの研究マインドの育成（学部生の研究室配属、選択制カリキュラムの充実）
- ・幅広い教育の提供（教育特任教授等の活用、単位互換等の大学間連携、ジョイントディグリー、主専攻・副専攻制、学士編入学の活用など）

2 大学院教育の改善について

○養成目的とキャリアパスの明確化

- ・大学院の目的の明確化（研究者養成と臨床医等養成）
- ・臨床医・臨床研究者・基礎医学研究者のそれぞれのキャリアパスの明確化とキャリア形成への支援
- ・教育者・研究者を目指す医師に対する、経済的支援も含めたキャリア形成支援の充実の検討

○教育内容の改善等

- ・地域の医療機関と連携したコースワークの工夫・改善（臨床教授制度の活用など）
- ・大学病院での臨床教育の改善（研究等を目的とした診療従事のカリキュラムへの位置づけなど）
- ・基礎・臨床研究の双方を修得させる取組（複数教員による指導体制など）
- ・新医師臨床研修の研修プログラムの工夫改善（例：英のアカデミックF2プログラムを参考とした研究マインドを育む研修）

○体制整備等

- ・公衆衛生大学院の整備促進（教員養成、カリキュラム開発、処遇改善など）
- ・他分野の人材の育成（修士課程の活用、社会人受入）
- ・大学院に進学しやすくする取組（秋季入学、早期進学コースなど）
- ・米国のMD／Ph.Dコースを参考にした早期進学特例の活用（休学制度の活用、カリキュラムの工夫改善、処遇改善など）
- ・専門医養成における大学院の取組の充実、大学院と大学病院との連携の充実
- ・博士号取得が教育者・研究者のスタートライン等として実感される取組（取得を助教採用時に必要条件とすることなど）

3 その他

①教育者の教育能力開発の推進

- ・FDの充実（実習担当教員と臨床教授、基礎と臨床の共通のFDなど）
- ・教員の適正な評価、評価手法の充実（能力評価など）
- ・教育業績の優れた教員へのインセンティブ（顕彰、給与上の処遇など）

③若手の研究者・教員への支援

- ・助教制度を活用した若手研究者等の育成（スタートアップ支援、採用選考の工夫改善など）
- ・医学分野の特性に配慮した支援の充実（特別研究員制度の対象年齢の引き上げの検討など）
- ・若手教員への留学支援（経済的支援、研究休職など）

②教育研究組織の整備

- ・教育研究の目的を踏まえた教員組織の編成（学問体系主体の講座制の見直しなど）
- ・関係者の有機的な連携（複数の専攻分野を有する教育研究組織の整備、領域横断型研究プロジェクト制など）
- ・教育研究基盤の充実のための国の財政的支援（教育研究ポストや指導層の充実など）
- ・産業界等との連携（寄附講座の設置、それによる教育研究ポストの確保など）
- ・中間層への支援と事務系職員の役割の充実
- ・研究・臨床現場間の人材流動性の向上（任期制の活用など）

④治験を含めた臨床研究の推進

- ・大学を中心にした組織体制の整備（データセンター、専門家養成等の役割の推進など）
- ・全国的な拠点整備（教育・研修・実施支援）

